

令和 6 年度 奈良県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 開催日時 令和 7 年 2 月 7 日（金） 14：00～16：00
- 2 開催場所 奈良県コンベンションセンター 202 会議室
- 3 出席委員 15 名（臨席 10 名、ウェブ 5 名）
臨 席）原田会長、根木副会長、朝原委員、伊藤委員、加藤委員、亀田委員、
千葉委員、蝶間林委員、疋田委員、福西委員
ウェブ）川手委員、田中委員、中西委員、星野委員、松永委員

〔河内課長補佐〕

- ・開会

〔木村次長〕

大変お忙しい中、委員の皆様にご出席いただき感謝申し上げます。

スポーツ界では昨年パリオリンピックが開催され、本県にゆかりのある柔道の新添選手、そして、初老ジャパンという名前で有名になった馬術の北島選手、田中選手に県庁へご訪問いただく機会があり、職員にとって貴重でうれしい体験となった。また、地元でも選手の応援でスポーツに大変盛り上がった年であったと思う。

本県では、これまでの審議会でも報告してきたように、令和 13 年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、準備を進めている。

また委員の皆様からいただき貴重なご意見を取りまとめた第二期スポーツ推進計画、この実現に向け様々な取り組みを行っている。

本日は、そのあたりについて、我々の方から報告させていただき、その後皆様の貴重なご意見を賜りたい。

どうぞよろしくお願いする。

〔河内課長補佐〕

- ・会議資料について説明
- ・委員の紹介、議事録の公開等について説明

〔原田会長〕

- ・議事録署名人に蝶間林委員、福西委員を指名

●事務局からの報告

〔河内補佐〕 橿原公苑再整備基本構想について

最初に、資料 4 をご覧いただきたい。橿原公苑再整備基本構想について説明させていただく。

県立樫原公苑については、令和 13 年の本年での国体開催に向けて、また、その後の利活用を見据えた検討をこれまで行っており、昨年の 12 月にその内容を基本構想として取りまとめた。

1 ページをご覧ください。

樫原公苑は、多くの県民が多様な楽しみ方ができ、にぎわいや交流の創出、多様な役割を担うための施設とするなど、記載の目指すべき姿や基本コンセプトに基づいた整備を実施していく。

また、整備後の活用方針として、誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり等、5 つの方針により、新アリーナ、陸上競技場、野球場の各施設について、記載の機能を有するスポーツ施設として整備を進めていく。

具体的な各施設の規模機能については、資料の 2 ページのとおり。

新アリーナについては、バスケットボールコート 3 面以上。観客席 5000 席を有するメインアリーナとバスケットボールコート 1 面以上、観客席数 300 席程度を有するサブアリーナのほか、記載の規模機能を備えることとしている。

また、武道場、弓道場については、国民スポーツ大会の施設基準に準拠した機能を備えることを考えている。

陸上競技場については、トラックやインフィールドのリニューアルや多目的広場への練習用走路の整備等を、そして、野球場については、外野グラウンドの拡張や防球ネットの新設、外野の人工芝の張替え等、記載の改修を検討している。

続いて、3 ページをご覧ください。

資料右側に新アリーナの整備予定地の図を載せている。新アリーナの整備場所については、樫原公苑と樫原公苑以外の場所について、様々な観点から検討してきた。

最終的に樫原公苑から北へ約 1 キロ離れた、地図上では赤でくくっている、医大新駅西側が、新アリーナを整備する場所としてふさわしいとの結論に至った。

今後はこの場所を整備予定地として、具体的な施設の配置を検討し、樫原公苑内の施設の整備とともに、令和 13 年の国スポ全スポ大会に間に合うよう整備を進めていく。

資料 4 については以上。

〔市井課長補佐〕スポーツイノベーション推進本部の取組状況について

続いて、資料 5 の説明をさせていただく。

本日のこの会議検討体とは別に、令和 6 年 4 月に国民スポーツ大会の奈良県開催を契機に、一過性でない持続可能な競技力の向上や人材育成に取り組むために、産学官の連携のもとに、資料 5 の 2 ページにある委員の皆様で構成する奈良県スポーツイノベーション推進本部を立ち上げた。

資料 5 にある取り組み内容、特に令和 7 年度の取り組みについては、今後の 4 月に予定しているスポーツイノベーション推進本部会議で、了承決定となってくる事柄である。

現在の段階においては素案の段階であるが、スポーツ振興課の取り組みとして重要なものであるので、本日この会議において報告事項とする。

資料5の3ページをご覧ください。

奈良県スポーツイノベーション推進計画の素案である。今年度に調整し、次年度4月のイノベーション推進本部会議で提案予定としているものである。

計画の定義としては、奈良県で開催する国スポ大会を契機に、その先を見据えた持続性のある競技力の底上げを推進することを目標として、スポーツ推進計画も踏まえながら、その具体化に向けたロードマップを示すために策定するものである。

右下にあるように、3つの大方針、取り組み方針をベースに各事業を展開していこうと考えている。

続いて4ページの方をご覧ください。

スポーツイノベーション推進本部における取り組み、特に令和7年度の素案である。

01から08番については、これまで令和6年まで実施している事業を令和7年度も継続して実施していこうとしているものである。09番から13番については、新規の事業として考えているものである。

一番下にあるように、令和7年度に向けた新規事業については、次世代を担う子どもを主眼に置いて重点的に事業を推進、協働で事業に取り組むことで、県と各競技団体間の連携力を強化していきたいという考えに基づいている。

その結果、目指すべき成果としては、一過性に終わらない将来性を見据えた組織・体制づくりをしていくということを目指している。

続いて5ページ以下は、各事業の概要である。この中から主なものをいくつかピックアップして説明させていただく。

まず6ページの方をご覧ください。

〈02 競技団体向けアスリート活動支援事業〉である。概要としては、将来国スポ大会などで活躍が期待される県内アスリートの力をさらに伸ばすため、各競技団体に育成支援、指導を行う奈良県スポーツ協会への事業補助である。

令和13年に開催される国スポ大会を契機として、競技力の持続可能な向上を実現するべく、先催他県の取り組み等を参考にしながら、アスリートや指導者双方への支援を実施していくものである。

限られた予算において、競技団体の抱える課題点やポイントについて、その部分を支援できるように重点化して、補助の方を行っていきたいと考えている。

下に3つあるが、1つ目としては、選手の育成強化事業である。考え方としては、大会の遠征に係る経費への補助を増額し、直接的にチーム・選手の強化につなげるような支援強化をすることとしている。

右側の指導者育成強化事業であるが、こちらについては、奈良県のスポーツ協会に籍を置きながら、競技力の向上の推進事業拡大に対応するだけでなく、競技団体のさらなるフォローアップをする人員の確保を強化するとともに、上記にあるような、必要な育成を実施して

いきたいと考えている。

これと合わせて、3番にあるように、練習器具や用具の整備支援についても、来年度しっかり取り組んでいきたいというふうに考えている。

次に7ページをご覧ください。

〈03 未来のトップアスリート発掘育成事業〉である。こちらについては、この国スポ大会や、将来国際大会で活躍が期待できる、優れた素質を有するジュニアアスリートの発掘、個人の能力や特性にマッチする競技種目の紹介、育成を通して、各競技種目の底上げ、すそ野拡大を図るものであり、令和6年度より本格的に実施を始めているものである。

こちらの写真にあるように、主にこの事業としては、スポーツの能力測定会の実施と育成のプログラムを実施している。育成プログラムとしては、競技団体との協働による競技体験会と、あとは基礎的な運動能力の向上を目指す育成トレーニングの運動プログラムを実施する内容になっている。

令和7年度についても、この令和6年度に初年度実施させていただいた内容を、さらに工夫し、実施していきたいというふうに考えている。

続いて、8ページの方をご覧ください。

〈04 アスリート県内定着プログラム推進事業〉については、県内で働きながら、アスリート活動を続けたいとされるアスリートの方と、そういった方を採用したいという企業のマッチングを推進していく事業として、令和6年度から進めている。

こちらについては、短期的というよりも中期的、さらにその先を見据えた、ちょっと長いスパンを見据えた事業になっている。現在のところ、求人登録企業数としては、こちらに記載の企業様からこういった人材があれば紹介してほしいといったようなお声をいただいているところ。

続いて、9ページ、08番の下に記載の事業である。〈身近な運動普及啓発事業〉として、こちらは継続事業であるが、運動習慣のない人や運動に興味のない人の運動を始めるきっかけ作り、また運動の楽しさを啓発することで、運動習慣を持つ人の底上げを図ることを目的とし、運動教室を開催している。

本日出席をいただいている千葉すず委員を講師とし、各過疎地域を対象に、住民向けに運動教室を実施して身近に実践できる運動やスポーツの楽しさを啓発するということを目指している。

最後に10ページをご覧ください。こちらのページは、令和7年度からの新規の事業を記載している。右上の12番の事業について説明させていただく。

令和6年度についても、先ほどご説明させていただいた発掘育成事業の中で色々な競技の体験会を実施してきたところであるが、競技団体も非常に熱心で、子供にも大変好評であったので、少し拡大するような形で〈こどもスポーツフェスティバル〉として、実施したいと考えている。

下の13番の〈スポーツコミッション勉強会開催事業〉については、勉強会の実施ということで、スポーツコミッション活動のメインストリームである大会の合宿誘致等で必要と

なる施設の整備状況や、国スポの準備状況等を見据えながら、設立時期や設立主体を慎重に協議するための勉強会を継続して実施していきたいと考えているところ。

資料5の説明とさせていただく。

〔小林主幹〕第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会開催基本構想の策定状況について

続いて資料6に基づき、第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会開催基本構想の策定状況についてご報告する。

まずは大会準備のこれまでの経緯について説明する。令和3年1月に第85回国民スポーツ大会の開催県として内々定し、同年11月に奈良県準備委員会を設置して以降、開催基本方針、開催準備総合計画を決定するなど、大会準備を進めてきた。今年度、令和6年8月には、国スポ競技会場地市町村第2次選定を終え、来月末には第3次選定を行う予定。令和7年度に中央競技団体による競技会場地の正規視察を受け入れ、令和8年5月に開催申請書を提出、同年の開催内定を目指す。

次に開催基本構想の検討の経過と今後のスケジュールについてご説明する。

昨年8月の県準備委員会の常任委員会において、開催基本構想を令和7年8月日途に策定することを決定いただいた後、事務局において開催基本構想の骨子を作成した。事務局の骨子について、準備委員会の総務企画専門委員会に対する意見照会、また準備委員会委員に対する提案募集を行い、多数のご意見、ご提案を頂戴し、素案をまとめることができた。

本日午前、県準備委員会の総務企画専門委員会を開催し、総務企画専門委員会の委員長として原田会長にもご出席賜り、開催基本構想の素案を審議いただいた。今後常任委員会に検討の経過を報告し、4月には県民の皆様からの意見募集も行い、令和7年8月を目標に開催基本構想を完成させていく考えである。

素案の概要について説明させていただく。

開催基本構想とは、奈良県が目指す大会の姿を明らかにし、大会の開催準備、運営に取り組む指針として定めるものである。奈良県の大会をどのようにしていくのかを関係者が共有し、協力し合いながら成功に向けて努力することが、大会の意義を深め、よりよい結果を生むことに繋がると考えている。そうしたことから、目指す大会の姿としては、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を一過性の競技会やイベントとしてとらえるのではなく、スポーツをしたい人、そこには年齢や性別、障害のあるなしにかかわらず、快適にスポーツに親しめる環境を整えることを大会のレガシーとして位置付け、スポーツを支える体制や仕組みを次世代へと継承することを目指す。

さらに大会をきっかけとして、スポーツを「する」「観る」「支える」といった行動が定着し、健康的な生活、心身の豊かさをもたらすことで、社会全体として持続可能な幸せ「ウェルビーイング」を実現することが目標である。

そこで大会のコンセプトに「未来をつくる大会」「スポーツとつながる大会」の2つを柱

に、未来をつくる、スポーツとつながるための取り組みを展開していく。

「未来をつくる大会」には3つの取り組みが紐付いている。「コンパクトな、新たな大会」では、運営の効率化を進め、無駄を省きながら全体の質を維持し、満足度の高い大会を目指すとともに、既存施設の最大限の活用、将来の財政負担に考慮した施設整備を推進する。

「連携・協働でつくる大会」では様々な主体との連携協力のもと、大会準備に取り組むことを謳い、具体には海がないといった地理的な要因や県内の競技施設がないといった事情により、県内での実施が困難な競技は、他府県との連携による県外施設での競技開催を想定している。「共生社会をつくる大会」では、ユニバーサルデザインの視点に立った大会づくりを掲げ、全国障害者スポーツ大会を契機とした、心のバリアフリー、障害者スポーツへの理解促進にも取り組むこととしている。

「スポーツとつながる大会」では、「[「する」「観る」「支える」でスポーツとつながる]」として、競技会の開催や選手の応援を通じて、スポーツへの関心を高めるということを目指していく。「アスリートとスポーツを支える人材をつなぐ」では、少子化や人口減少の影響で、競技スポーツに取り組む人口を維持することが困難な状況にあるので、指導者、競技役員といったスポーツを支える人材とあわせて、次世代アスリートの発掘や育成強化支援にも取り組む考えである。「地域とスポーツがつながる」に対しては、各地で実施された競技の地域への定着を目指し、地域とスポーツの一体感を育み、地域の活性化をつなげることを目指したいと考えている。

以上が大会開催基本構想の策定状況の報告である。

〔小林主幹〕第85回国民スポーツ大会競技会場地市町村の選定の状況等について

続いて資料7、国スポ競技会場地市町村の選定状況について報告する。

第85回国民スポーツ大会、第30回全国障害者スポーツ大会奈良県準備委員会を組織しており、県、市町村、競技団体、経済団体、マスコミなど、奈良県全体で一丸となって組織し、大会の準備を進めている。

この準備委員会で選定された競技会場地については、令和5年8月に第1次として12競技を選定して以降、市町村、競技団体との調整を進め、令和6年8月7日、第2次選定として、18競技の会場地を新たに選定した。さらに来月には第5回常任委員会を開催し、第3次選定案を審議する予定となっている。さらに令和7年度には中央競技団体会場を視察、確認する予定となっている。

第2次選定を含めた選定等の状況である。下の「選定等の状況」をご覧ください。

第2次により「7ボクシング」など、15競技については会場地がすべて選定された状況になった。今まさに市町村や競技団体の意向を確認しながら調整を進めており、県外会場候補地とする競技種目を除いては、来月の第5回常任委員会で第3次選定案としてご審議いただき、引き続き大会準備を鋭意進めていく。

〔福井課長補佐〕部活の地域移行に関する進捗報告について

資料 8 に基づいて部活動の地域移行に関する進捗につきまして報告させていただく。

県では、令和 5 年度から 7 年度末までを改革集中期間と位置付け、中学校における休日の学校部活動について、地域連携及び地域クラブ活動への移行を完了することを目指して取り組んでいるところである。

令和 6 年 2 月には、山下知事より「令和 8 年度以降、中学校における教員の指導による休日部活動を廃止する」との方針が示されている。これを受けて、各市町村における部活動の地域移行、地域連携の動きが加速しておるところである。また、令和 6 年 3 月には各市町村における取り組みが円滑に進められるように、「奈良県中学校部活動の地域クラブ活動への移行の手引き」を作成させていただき、各市町村に周知をさせていただいているところである。

さて、令和 6 年度の主な取り組みとして、昨年度と同様に、スポーツ庁、文化庁の委託を受けて県内 19 市、町において、地域クラブ活動への移行に向けた実証事業に取り組んでいる。来月 3 月には、今年度実証事業に取り組んでいた市、町の実証、実践発表の場として、「奈良県地域クラブ活動推進連絡協議会」を開催する予定としている。また 6 月に「奈良県スポーツ・文化芸術指導者人材バンク」を設置し、部活動の方の指導をしていただく人の人材バンクを設けている。現在は、登録者数の確保に向けて進めており、一定の登録になれば、また運用に向けて進めていきたいと思っているところである。9 月と 1 月には地域クラブへの移行が進むことによる、大会運営等に関する課題について、県中学校体育連盟との協議の場を設け、解決に向けて、連携して取り組んでいるところである。また 11 月には、天理大学との連携協定を締結した。本協定に基づく取り組みの具体的内容はこれから詰めていくことになっているが、地域移行に関わる部分として、地域クラブにおける大学生の活用や、指導者養成の面で大学にご協力いただくことを想定している。

今後に向けては、地域移行に関する情報発信を県において、またさらに充実させていくということを考えており、またあわせて企業からの協賛獲得に関する取り組みの充実を検討していく。

改革集中期間の最終年となる令和 7 年度には、各市町村における取り組みがスピードアップすることが予想される。色々な課題もまた出てくることと思われるが、県としてどのような支援ができるのか、市町村をはじめとする関係各所との連携を図りつつ、事業の推進に努めてまいらる。

●県の報告事項に対する各委員の意見

〔亀田委員〕

ご丁寧に説明いただき感謝申し上げます。どの資料についてということではないが、数点お尋ねをさせていただきたい。

まずは国体に向けて、最低 5000 人収容できるアリーナの検討が進んでいる状況である。当初の山下知事の計画をさらに拡大していただき、これぐらいの規模のアリーナ建設を進めていただいていることに改めて感謝申し上げたい。これまで奈良県にない施設を整備するため、これから基本構想、基本設計というふうに入っていくと思われるが、最低 5000 人ということで、6000 人、7000 人収容できる、そんなことが可能であれば、ぜひ可能性を追い求めていただきたい。橿原市に建設が予定されているため、県の事業ではあるが、橿原市もしっかりと連携をしながら、できる協力をしっかりとさせていただきたいと思うので、これはぜひお願いしたいと思う。

2 点目は、当初アリーナに併設して武道施設ができるということであったが、医大新駅西側にアリーナができるということになったため、武道施設はそこに一緒ににはなかなかできにくいのではないかと聞いている。そのため、現在のジェイテクトアリーナのある場所に武道施設を持ってくるのかなというようにイメージをしているが、奈良県にはなかった県立の武道施設ということになるので、ぜひ武道各競技に広く使えるような、しっかりとした武道施設の建設をお願いしたい。

3 点目は、これはもう認識いただいていると思うが、私のところにも競技団体から問い合わせがある。新しい施設ができるのは良いが、ジェイテクトアリーナが使えない期間が、少なくとも 2 年ぐらいはあるというように認識している。年間通じて結構使われている施設であると思うので、無くなったときにどこか使えるような調整を、ぜひ県の方が旗振り役で、各市町村の施設であるのか、そうでないのかは別にしても、競技団体等に寄り添った対応をいただけるとありがたい。

4 点目は、国スポ大会の競技会場地選定がもういよいよ大詰めになっているが、橿原市もいろいろ協議をさせていただいている。橿原市としてはまだどうなるかわからないが、できるだけいろんな種目ができるように協力をさせていただきたいと思っている。しかし、当然人的なことや、費用面、やればやるほど、そういったものが必要となってくるため、単独ではやっていけない部分がある。橿原市だけのことなく、開催する市町村に対しての費用面や、人的な支援を、ぜひ県の方からお願いしたい。また、もし仮に開催する競技がないという市町村があったとしても、これは奈良県全体で成功に導いていく大会だと認識しているため、39 市町村、県も含めてみんなでつくり上げるような体制づくりを、ぜひ県の方で調整していただくことをお願いしたい。

最後に、スポーツイノベーション推進本部の取り組みのところか、次の議事の中かどちらかに、e スポーツの観点をに入れていただきたい。もう入っているのかなと思っているが、e スポーツが、どこかのオリンピックからスタートするということでも聞いている。e スポーツの観点があるのかないのかというところがはっきりとわからなかった。e スポーツの場合、健常者と障害者の方が試合をすることが可能になってくる。この前NHKで特集をしていたe スポーツの大会で、私も衝撃を受けたが、全盲の人が健常者にe スポーツの格闘ゲームで勝利したという実例も紹介されていた。リアルな部分ではなかなか普通のオリンピックとパラリンピックで分かれているようになるだろうが、e スポーツは、健常者、障害者が

一緒になって戦うような状況がつかれると思う。これからの、1つのあるべき姿だと思ったため、eスポーツの観点というか、eスポーツの取り組みも県の方でも積極的に進めていただけたらありがたい。たくさん申し上げて申し訳ないが、よろしくお願いしたい。

〔原田会長〕

eスポーツは国スポでは文化プログラムの扱いになっているが、26年のアジア大会では正式種目でメダルが授与される競技になっている。事務局でeスポーツに限らず、亀田委員のご質問に対するお答えよろしいか。

〔木村次長〕

橿原への武道場の整備の観点については、もともとは今の橿原公苑内にアリーナを建てる予定であったため、その新アリーナの中に、併設という形で武道場を整備する方針としていた。しかし、アリーナの場所が変更となったため、武道場を公苑の方に整備するのか、当初通りアリーナの中に整備する方がいいのか、どちらがいいのかということで、これは色々な意見を聞いてまたこれから基本計画をまとめるので、その中でしっかり答え出していきたい。

質問の中にもあるように、ジェイテクトアリーナが使えない期間があるという意見も聞いているため、武道場をいつ整備するのかということも含めてもうしばらくお時間いただきたい。

また、国スポを開催していただく市町村について、費用負担、人的負担への支援のお願いということで、これは橿原に限らず、多くの市町村から、ご意見、要望いただいているため県の方で考えさせていただきたい。

最後のeスポーツについて、これは私見になってしまうが、正直に申し上げると、少し難しいと感じている。数年前に、eスポーツの関係でニュースを見たことがあるが、eスポーツに関わる時間が長い人ほど、体力が衰えている、視力が下がっているという結果が明らかに出ているという事実が発表された。他府県からも、eスポーツをスポーツの所管で担当しているかというアンケートが来るが、これは非常に少ない状況である。奈良県もそうであるが、スポーツ振興課には、あくまでも県民の健康と体力向上ということが求められているため、eスポーツをする人ほど体力が下がっている、視力が落ちているという結果から、eスポーツがスポーツ基本法に基づくスポーツといえるのかという点で難しいところがあると感じている。先ほど原田会長からもあったように国スポでも文化イベントとされているのが現状である。

ただ、世界大会なども行われているため、スポーツを盛り上げる、あるいは情報発信する手段として活用していくということについては、非常に効果があるかと思っており、そのあたりは、我々の方でも慎重に対応させていただきたい。

〔亀田委員〕

体の健康だけでなく、eスポーツで心が健康になる人もいる。そのため、すべてにおいてeスポーツということではなく、それを楽しみにしている人も当然いらっしゃるので、体力がなかなか向上しなくても、心が豊かになるというところの観点はあると思う。検討の中から外さないようにぜひお願いしたい。

〔原田会長〕

今後の日本スポーツ協会の対応とも密接に関わってくるため、注目したい。
その他ご意見のある方はいらっしゃるか。

〔伊藤委員〕

亀田委員の続きのようになるが、施設は規模や収容人員などを含めてこれからまだまだ検討をしていかれると思う。その中で、あまり出ていないが、駐車場についてどのように考えておられるのかを伺いたい。現在の交通状況から考えると、車がかなり多いと思われるが、これから皆さんに利用してもらおうとなれば、駐車場は確保しなければいけないと思っている。そのような中で、今の敷地の中でどれぐらいの規模の駐車場を確保するのか、そういう検討がされているのかどうかをお聞かせ願いたい。

〔木村次長〕

県の方で現在考えている施設の整備というのは、橿原市のところで考えている。これがすべてである。

整備にあたっては、新アリーナを建てる場所に、近鉄の新しい駅ができるということで、亀田市長の方と奈良県とで、まちづくり協議会というものを立ち上げており、アリーナだけの整備の問題ではなく、この辺り一帯のまちづくりをどうしていくかという観点で、アリーナの整備も進めている。

伊藤委員からご指摘のあった駐車場についても、橿原市や地元の方から、渋滞対策、駐車場対策ということでたくさんの意見をいただいております、我々も課題としてとらえている。その中で、何台程度が適正なのかということについても、基本計画の中でその辺りの市場調査をしっかりとさせていただきたいと思っている。私も、他県の状況を色々と調べているが、その中で、なぜ渋滞が起こるかということについては、基本的には駐車場が多いから逆に渋滞が起こるというように言われている。今、まちのアリーナは駅前につくるので、公共交通機関で来てください、駐車場は作っていませんというところが多い。駐車場を作らないイコ

ール車で来ない、渋滞が起こらないというふうになっている。例えば、何万人も入るような野球場には、駐車場内がない、だから渋滞が起こらないということ。ただ、その条件をすべてここにも当てはめていいかというのはまた別であり、奈良県独自の事情というのものもあるかと思う。例えば、アリーナは駅前だが、家の周りに交通機関がないという方もいらっしゃるので、全く作らないということは当然ないと思うが、その辺の適正な台数確保というのがどのくらいかということについてこれからしっかり考えたい。

〔松下アドバイザー〕

スポーツイノベーション推進本部という非常にビッグネームのタイトルの本部ができ上がって非常に頼もしい限りである。この中で、イノベーションという言葉に代表される、一般的にいうDX化、デジタルトランスフォーメーションのイメージが全く書かれていないことが、少し残念であると感じている。競技団体から見ても、人材の適切な管理、監督のようなことであるとか、競技力のデータ把握、それが適切な、効果的な評価に繋がっていくようなことも含めて、マネジメントにしても、やはりDX化というのが、最低限必要なことであるというふうに考えているので、そのあたりの言葉をしっかりと入れてもらうようお願いしたい。

〔木村次長〕

昨年度立ち上げを行い、イノベーションという言葉で、資料5の2ページの目の右下にあるように、新しいスポーツをということで革新改革というイメージで作成したが、今いただいたご意見を踏まえ、我々の方で考えさせていただきたい。

〔原田会長〕

1つのテーマというより、全体を網羅する大きなテーマである。ぜひそのような方向性も取り入れていただきたい。

〔福西委員〕

毎回お話しているが、私どもは地域のアマチュアのスポーツクラブという形で話をさせていただく。武道場がどのようになるかというのはまだ明確には決まってない伺った。ただ、地元でそこを使っているところというのは、使えないことはともかく、一体何年間使えない時期が出るのかというのは、できるだけ早い段階でアナウンスをしていただけると、地元のクラブの方もそこを使わない期間をどうするかということを考える材料になるので、その辺をできるだけ早い段階で出していただきたい。

スポーツイノベーションのデジタル化というのがどのような感じなのかなと楽しみにしていたが、それを先ほどの松下さんのような形で入れていただければなと思っている。委員の名簿について、プロスポーツ、企業スポーツというものがあるが、同じスポーツで、学校体育ではなく、地域でやっているアマチュアのスポーツクラブというものもあるため、このような話し合いの場に、アマチュアのスポーツ団体も、入れる方が色々なことを、言える場、聞ける場ができるので、その辺も少し考えていただければなと思う。

3つ目は、部活動の地域移行のことである。実際に中学校の部活動をどういう形でこれから進めていくかということは非常に難しい問題だと思う。今までは学校の先生方におんぶにだっこでやっていたものが、これを民間、地域に出すということであり、子どもたちのために、いかにそのような場所を減らさないか、なくならないようにするかというのが非常に大事となる。その中で、「地域クラブ」という名称が出てきている。この地域クラブの中で、我々のように元々から、その地域にあるクラブと、この部活動の地域移行のために、新しく立ち上がったクラブというのがまずあるかどうかというのが1つの質問である。また、スポーツは、中学生だけが非常に大事ではなく、スポーツをまず好きになることが一番大事であるので、この部活動の地域移行のために、例えば学童で誰もが、取り入れるようなスポーツを積極的に入れるなど、何か小学生の段階から、アスリート系でなく、皆が楽しむスポーツの機会を増やす、色々なスポーツができるというようなところを何か考えているのか。

最後に、スポーツ選手を奈良県内に残すということについて考えると、サッカー界は小学生から中学生の段階で、エリート選手はほぼ県外に出て行くのが現状である。高校サッカーにどれくらい強豪校があるかどうかなってきている。その中で、学校体育において奈良県内にも体育科のある学校があるため、アスリートを目指している子どもたちがそこに集まってくる。そこへの強化、例えば指導者や、冷暖房を含めて施設などを変えることで、トップアスリートでプロのある競技は、県外へ出るだろうが、その次の選手は、奈良県の公立の中にそのようなものがあれば、高校からもなかなか出ていきにくいと思われる。

高校の町クラブはなかなか、サッカー界でも作っていくことが難しい。他の競技もそうだと思うが、その辺を何とか連携して、やっていただければ、我々指導者側も、残れという言葉の方はしないが、こういうところがあるということも言えるため、その辺をお願いしたい。

〔木村次長〕

まず1つ目の橿原公苑のジェイテクトアリーナ体育館がどれくらい使えないかということで、当初の計画では今の体育館を取り壊し、そこに新アリーナを建てる予定をしていたため、その計画に則ると、令和8年から12年までの5年間ぐらいは使えないだろうということで、このことについては昨年度、各競技団体の方にお伝えしている。

現在学生の大会などでよく利用されているため、その場合どうなるかというところを市町村の体育館も含めて、競技団体ごとで調整をお願いしている状況である。しかし、市町村の体育館も国スポの会場地として選定を進めており、市町村の体育館も一定の改修が必要

となり、使えない期間が出てくる。そのため、奈良県内に体育館が不足する期間というのが相当出てくると想定している。そのため、現在ある体育館をいつ潰すのか、その武道場の整備との関係性も含めて、大きな課題だと認識している。

また、イノベーションの委員にアマススポーツの団体をという意見もいただいているが、私の方ではこの資料 5 の 2 ページ右側、本部委員の委員名簿真ん中で企業スポーツとなっている佐藤薬品工業は、野球部があり、アマススポーツとして入っていただいたイメージを持っている。

地域クラブについて、県内全域のクラブを把握しているわけではないが、大和高田市ではソフトテニスの地域クラブが新たに発足した。学校のクラブに入り、学校の部活動として行っている子と、この地域クラブに入っている子では、はっきりと色分けがされてきている。大和高田市において学校の部活動で行っている子は、学校が終わったあと楽しく数時間練習をしており、競技として大会で結果を残すことを目的にしている子どもたちは地域の方のクラブに入っている。全市町村の状況までは把握できていないが、大和高田市のソフトテニスに限っては住み分けができてきていると感じている。

〔福井課長補佐〕

学校の体育施設の整備については、現在各施設主に、部活動は体育館や運動場で行っている状況である。ただ、今般夏が非常に暑いというような、気象の関係等もあるため、体育館の方の空調の関係の整備などを進めていく必要があるかなということを県の方で考えているところである。

〔福西委員〕

部活動の地域移行で、地域クラブによる移行ということになっているが、そのクラブは既存の団体だけか。それとも地域移行のために、新しく組織を作っているクラブというのは奈良県の中にあるか伺いたい。

〔成田係長〕

部活動の地域移行に関して、今年度地域移行の実証事業に取り組んでいただいている 19 の市町の中で、既存の総合型地域スポーツクラブや既存のクラブチームに委託をされているのは 5 つある。それ以外の 14 については、主に自治体が地域クラブの運営団体を立ち上げて、中学校の部活動の受け皿となる団体を、作って行っているところである。新しく地域移行の受け皿として活動が始まっているクラブチームは、結構な数があるというように思っていたいてよいと思われる。小学生への働きかけという点で、各市町村で話をするのは、今活動しているスポーツ少年団が大体小学校で卒部を迎えられて、中学生になったら学校の部活動へというようなことが、これまでの流れであった。制度上、スポーツ少年団で中学

生までカバーできるような制度になっており、今後地域移行の絡みでいうと、9年間を一貫した指導を受けられるような体制にさせていただく方が、子どもたちにとっても環境安定して良いのではないかという話をしている状況である。

〔根本委員〕

様々な取り組みに感謝申し上げる。

スポーツイノベーションの推進本部の報告と、国スポ・全スポにあたっての絡みについて話をさせていただきたい。

私自身がよく活動している日本財団 HEROs にて、「HEROsPLEDGE」という活動をよくやっているように、スポーツ界から環境についての取り組みについて非常に大きい動きが起こっている。例えば、プラごみをなくそうというところで、Bリーグ、Jリーグのクラブチームの人たちと組み、アスリートたちとプラごみがどれだけ出るか、どれだけ綺麗に分別できているかということを行ってきた。

「スポーツの力で未来を」ということで、今回のスポーツ大会のこの骨子の中にも「未来をつくる大会」と入っているように、スポーツの価値や意義は色々なものがあるが、やはり環境について、待ったなしの状況になっている。

そのような地球温暖化対策を含めて、スポーツ大会やスポーツ興行の中で、増やさないということの努力は、もちろんしないと駄目なことであるが、逆にそこで取り組むことで、観客への発信力におけるスポーツの力は非常に強いと思っている。

そのようなことをやはりこのスポーツのイノベーションの中で取り組む。国スポ全スポにあたって、「未来をつくる」や「コンパクトな大会」という言葉にもそのような意味が含まれていると思うが、もっとキャッチーな言葉が出るぐらい、スポーツの力で、環境や未来を作るということをどんどん取り入れることが、競技力だけでなく重要となるのかなと思う。

ボランティアも同じだが、「する」「観る」「支える」ということで、まさしくここだと思う。このような大会に注目する、こういう、何十年に1回しかないものに向けて、みんながそれぞれの思いがある、県全体で取り組めるからこそ、このタイミングで、本当に大きく繋がってくる。ボランティアというのは、結果としてスポーツのボランティアではあるが、それ以外のものにも繋がってくる。奈良で観光のボランティアがあつたりすると思うが、そのようなものとスポーツを1つにして、ボランティアのムーブメントを作っていくというのも非常に良いと思うので、もっと力を入れていただけたらと思っている。

私がよくやっていることではあるが、この間は橿原市で、出前授業を行った。パラスポーツの出前授業で、奈良県で一番数多く行っているのは橿原市であるが、日本中の学校で約100校は行っている。特に国スポ・全スポ開催の都道府県では、開催年の数年前からよく呼ばれるようになり、直近になると1ヶ月滞在し、学校中を回っている。多様性、インクルーシブ教育という中で、スポーツの力、特にパラスポーツを伝えるということは非常に大き

い要素があるというように思う。普段からやるべきことではあるが、全スポを行うことにより、知らない競技をみんなに知っていただける。パラリンピックがまさしくそうであり、ボッチャなどは昔知らない人が多かったが、現在日本中の学校でされていることにより、障害の理解にも繋がっている。私がパラアスリートというところもあるため特に思うが、教育でのスポーツの力というもののの中で、新たな部署ができるぐらいに啓発していけたらいいなと思っている。

このような構想がこれからあるか、もしない場合でも、そこはしっかりと入れていただけたらと思う。

〔木村次長〕

最初の環境というところで、1つの例であるが、奈良県で一番大きなスポーツのイベントというのが毎年12月に開催している奈良マラソンである。奈良マラソンは12月の第2日曜日にフルマラソン開催しているが、その前の週に参加者に呼びかけて、マラソンのコースをゴミ拾いして綺麗にしようというイベントは実施している。

パラの方では、奈良県はどうしても障害者スポーツの体制が弱い状況である。ここをやはり強化していかなければならないということについて十分に認識している。

奈良県以外のところを含めて様々なところで、スポーツの取り組み状況を見ているが、パラ競技を障害者の方だけがやっているのではなく、例えば車椅子バスケット用の車椅子に乗って、実際にどこがやりにくいのか、健常者の方に体験してもらおうというようなこともやられているところもあった。パラスポーツは決して障害者の方だけを対象に進めていくのではなく、健常者の方にもっと理解してもらう必要があると個人的には思っている。

ただ、どのようにして進めていけば、そのような輪が広がっていくのかということについて、現段階で具体的な案があるわけではないため、今後も色々と知恵を貸していただきたい。

〔松永委員〕

奈良県のスポーツイノベーション本部については、今、非常に期待をしたいと思っているところである。

委員構成等についてご意見があったが、DXや環境など、また、企業スポーツがアマチュアスポーツを兼ねる、どちらかというところ福西委員が仰っていたように、地域スポーツの視点というところのご指摘だったかなというところも私も感じる場所であった。

役職の方が入っているため仕方がない部分もあると思うが、この審議会に比べると、スポーツイノベーション本部の方は女性委員の割合が、かなり低く、色々な視点、議論が必要と思ったときに、ワーキング等で声を拾うというところにおいて、少しその辺りのご配慮は今後いただきたいと思った。

先ほど根本委員から障害者スポーツの視点についてご発言があったが、このスポーツイ

ノベーションスポーツ推進本部には、障害者スポーツ関係の方も入っておられない。冒頭、新しい施設の話があったが、障害者の方の直接の声というものをしっかり聞いた上で、建設・設計等を進めていかないと、新しい建物ができても、実際使ってみた時に使いにくいというようなことが起きてしまうともったいないと思う。そのあたりのところは委員というところで限界があるかもしれないが、検討部会ではワーキング等々というところで、そういった幅広い方の声を拾っていくことで、より県民のために即した推進本部になるといいと思っている。

●議題「第2期スポーツ推進計画の目標達成に向けて」

〔河内補佐〕

それでは資料9と参考資料の1をもとに説明をさせていただく。

まずご審議いただく前に、現在の計画の中で定めた目標値や、県の実施事業について簡単に説明させていただく

資料9の1ページをご覧ください。

本県では令和5年の3月に策定した、第二期奈良県スポーツ振興計画で定めた、5つのスポーツの推進の基本理念に基づき、誰もがいつでもどこでもスポーツに親しめる環境づくりに取り組み、県民全体でスポーツの推進を図っている。

また、これら記載の5つの基本理念の実現の参考指標として、1ページ下に載っている2つの指標がある。1つ目として、「1日合計30分以上の運動スポーツを週2回以上実施している人の割合」、2つ目が、「1年間にスポーツをしない人の割合」である。1つ目の「1日30分以上の運動を週2回以上実施している人の割合」の令和9年度の目標は、男女とも55%、そして「1年間にスポーツをしない人の割合」は30%。これを令和9年度に達成できるように、様々な事業を実施している。

それらの実施している事業をまとめたものが、本日の資料の参考資料1である。推進計画の系統に基づいて、まとめさせていただいたものである。

これについては、本日出席している、スポーツ振興課をはじめとする各課で取り組んでいる内容をまとめたものである。この中の一部を紹介させていただく。参考資料1の2ページの黄色で着色した項目をご覧ください。

〈(2) 子どもの体力向上方策の推進〉ということで、県では、子どもとアスリートの触れ合いの機会の創出ということで、ウエスタンリーグの公式観戦と、それらに出場された選手等による野球教室を開催しており、野球教室には、令和6年度の事業としては、474名の参加をいただいた。

続いて、参考資料1の3ページをご覧ください。3ページには、黄色で着色している箇所が2ヶ所あり、まず上段の方をご覧ください。

〈(1) 子育て世代、働き盛り世代のスポーツの推進〉については、ライフスタイルに応じた多様なイベントの開催ということで、県立橿原公苑陸上競技場において、ナイトランを実

施している。令和6年度からは、月・水・木・金の週4回の、17時から21時の時間帯において、陸上競技場を無料開放し、県民の皆様ランニングやウォーキング等による利用をいただいている。毎年、多くの方に参加いただいております。今年度は、2万人を超える利用との見込みである。

同じく、3ページの下段の方の黄色の着色箇所をご覧ください。

〈(4) 運動・スポーツのきっかけづくり〉について説明させていただく。地理的な条件により、運動やスポーツに接する機会の少ない方に対して、運動スポーツの楽しさを感じ、運動習慣の定着を図るための運動教室を、天川村等6ヶ所で開催し、163名の方に参加いただいた。これについては、先ほどのイノベーション推進本部の事業の中でもご説明させていただいたが、本審議会委員の千葉委員の協力をいただき、運動教室では簡単な筋力トレーニングの指導をしていただいた。また、水泳教室では、実際に泳いでいる姿を皆様に見せていただき、泳ぐことについて講演等いただいた。

続いて、同資料の5ページをご覧ください。

選手の育成ということで、国スポ・全スポ大会に向けたアスリートの育成を目指して、未来のトップアスリート発掘事業を実施している。こちら先にご説明させていただいたが、令和13年の国スポ大会や、世界大会で活躍されるアスリート発掘するための能力測定と、その測定会から選抜された、すぐれたスポーツ能力を持つジュニアに対しての競技体験や、トレーニングの運動プログラムを実施している。

時間に限りがあるため、本日の資料の一部の取り組みのみの紹介となったが、先ほど資料9で見ていただいた基本目標を実現するために、県では、様々な事業を実施している。

続いて、資料の9をご覧ください。

2ページ、3ページではそれぞれの参考指標についての、過去それから現在にわたっての状況を示している。

2ページは参考目標の1つ目である「1日30分以上の運動スポーツを週2回以上されている方の割合」のグラフと、年齢別のグラフとなっている。

この指標は、本県の方で実施している「なら健康長寿基礎調査」によるものである。この調査での運動は、日常生活の中で意識して行う「散歩、階段の利用、徒歩・自転車通勤」など、身体を動かすこと全般を含む内容としている。

運動習慣者の割合については、13年ほどの長いスパンで見ると、上昇傾向にある。しかし近年の状況でみると、第1期計画のときの目標値である50%については、令和元年のときに上回ってはいるが、新型コロナの影響を受けて、令和2年には減少している。その後、回復し、令和4年度には、再び50%を達した状況ではあるが、令和5年度の調査では、その数値を下回り、令和9年度の目標値の55%には届いていない状況である。

同じページの右側のグラフをご覧ください。年齢別の状況を示しており、男女とも、30代、40代の働き世代と子育て世帯の割合が低い状況にあり、これも4年度調査と同じような状況である。

続いて、この資料の3ページをご覧ください。参考指標の2つ目の「1年間、スポー

ツをしない人の割合」の状況を示したものである。こちらについても、先ほどと同じ、「なら健康長寿基礎調査」からのもので、これについては、「1 日合計 30 分以上の運動・スポーツをどれぐらいの頻度でしていますか。」という問いに対して、「ほとんどしていない」と回答された方の割合を指標としたものである。

「1 年間、スポーツをしない人の割合」というのが、この 3 ページの左側の折れ線グラフになっており、年々減少しているものの、30%には届いていないという状況になっている。

3 ページの右側には、30 分以上の運動の実施頻度を、それぞれ地域別年代別等で表している。地域別で見ていただくと、県の南西部（「五條市・野迫川村・十津川村」の 3 つの地域の合計）が運動の実施頻度が最も低い状況にある。各地域とも令和 4 年度の調査と比べると、数値の方は低くなっており、状況は少し良くなっている。また、年齢別で見ると、ほとんどの世代において、1 日 30 分以上の運動をほとんどしない方が、3 割以上を占めており、目標値の 30% っていうところを達しているのが、70 代の方のみとなっている。

また、この 1 日合計 30 分以上取り組んでいる運動・スポーツの内容をグラフ化したものが、次の 4 ページの内容である。

男女別で示しているが、男女とも、通勤、農作業、買い物等の日常生活に付随する運動をしている方の割合が一番高く、次いで、ウォーキングやジョギングなどのロードスポーツをしている方が、2 番目に高い。

また、男性と女性を見比べると、男性は、この 1 番目と 2 番目に高い割合というのは、昨年度に引き続き、その差はそこまで変わらないが、女性の場合は、令和 4 年度の調査に引き続き、どちらかというと、ロードスポーツより、日常生活に付随する運動をよくしていると回答された方が多いという結果になっている。

現在のスポーツ推進計画については、令和 5 年度から 9 年度の 5 ヶ年の計画であり、計画期間は残り 3 年程度である。

今後も引き続き、この推進計画に基づきスポーツに関連する様々な事業を実施していくが、この 2 つの参考指標を目標値に近づけていくために必要な考え方、具体的な取り組み、今後の県の事業展開に参考となりうることなどについて、委員の皆様方からご意見賜りたい。

〔朝原委員〕

興味深い指標を見させていただいたが、やはり若い世代が、ほとんど運動していないということで、この世代のときには問題ないと思うが、何もしなければ、1 年に 1% ずつ筋肉が減っていくというデータがあると思う。全く興味のない人もいるかもしれないが、医療費削減等を県が求めるのであれば、「若いころからスポーツや運動をして、筋肉量を維持しないといけない」という医学的な観点や、将来病気になる可能性があること等の情報をきっちりと伝えていく必要があると思う。

山間部の、千葉委員の事業は素晴らしいと思うので、もっと数を増やしていただきたい。

もう1つは参考資料1の、5ページの未来のアスリート発掘育成事業について。これは私も関わっているが、引き続き、新規の子どもたちを測定していくのか、卒業生だけの分をまた新しく測定するのかを知りたい。なぜかという、やはり毎回子どもたちが変わると、やっていくことの効果や経緯が少し見にくいのではないかとということが気になる。その辺をお聞かせ願いたい。

〔原田会長〕

事務局への質問を最後まとめてお返しいただく。

〔亀田委員〕

1点目はナイトランについて。6年度から木曜日を追加していただいたことに、感謝申し上げる。いろいろと事情があると思うが、平日すべてできるような体制が整えば、またさらに、使う方の利便性は向上すると思うので、引き続きの検討をお願いしたい。とにかく、1日増やしていただきたいという希望を結構聞いていたので、ありがたかった。来年度も、よろしくをお願いしたい。

2点目はさっきの報告の中にもあったが、スポーツコミッションを奈良県でも作られるという方向で進んでいると思うが、橿原市もスポーツコミッション早くから作っていただいて、原田先生にもお世話になりながら、取り組みをさらに推進させるよう努めている。ぜひ、情報交換や、県と連携して事業をしたい。スポーツツーリズムの観点で誘客を図る点も、取り組みの1つだと思っているので、またそれをよろしくをお願いしたい。

最後もう1点。先ほどのいろんな指標を、私も非常に興味深く見ていた。奈良県は健康寿命が、特に男性は全国3位ということなので、これがこの年代の、この運動するしないということに関わってきてるのかなと思う。これだけではなかなかわかりにくいですが、ぜひそういったところの分析もしていただき、スポーツをすると健康で長生きができるのだと、PRに使えるのでは思う。その辺の分析もできるようであれば、スポーツをするというきっかけに繋がると思うのでよろしくをお願いしたい。

〔原田会長〕

75歳以上の男性の運動参加率が女性を上回っているという非常にいいデータがここに出ている。62.8%という数字はすごい。

〔蝶間林委員〕

素晴らしい資料をたくさん作っていただいて感謝申し上げます。

奈良県のこのスポーツ推進計画は、「スポーツを、自分の生活の1つとしてとらえて、県民の健康を促進するということ」と、「トップアスリートを育てる」という2つの大きな側面があると思う。

シニアになるとだんだん筋肉が衰えてくる。私の友人は、筋肉を貯める「貯筋」を行っている。ふくらはぎや体幹や、大腿筋の筋力トレーニングを日常生活の中で少し工夫して、自然に筋肉がつくようにする必要がある。例えば、スクワットや、腕立て伏せはシニアにはなかなか難しいし、楽しくない。楽しくできて、そして結果的に筋力、そして運動能力がついて、スポーツを楽しむことが非常に大事だろうと思う。それをいかに県民に伝えていくか。

先ほど福西委員からもお話があったが、子どもたち（ジュニア）にスポーツを楽しませるというのは、とても将来にわたって大事になってくると思う。それから、シニアは、けがしたり病氣したりいろいろあるため、今頑張らないと、だんだん駄目になる。そのため、このシニアとジュニアを何か結びつけるような運動がいいと思っている。体育館に行くのもいいが、家庭でできる簡単な運動はどうかと、今イメージしている。

実は我が家の今年 99 歳になった義理の母が、家の居間で、ひ孫と一緒に先ほど福西議員が言われたようなピックルボールをやっている。約 20 分、非常に楽しそうにやっている。そうすると、目と手の協応もでき、足も多少筋力アップになる。そういう家庭でもできるような運動があることを紹介するとよいと思う。

特にシニアの場合、転倒が多くなるため、転倒予防のことも考えないといけない。そうすると、普段の歩き方も、こういうやり方がいいというアドバイスが必要。スポーツはもともと「気晴らし」という意味があるため、競技力、いわゆるアスリートを育てる、アスリートのための運動がスポーツだけではないということをしっかり認識し、自分の気持ちがすっきりする、やってよかったと思えることも重要。千葉委員に直接教えてもらえれば皆さんは幸せだと思うが、なかなか彼女自身も全部を回れない。そのため、その辺の情報をうまく伝えていただけたらと思う。

〔星野委員〕

スポーツ推進計画の方の資料、楽しく拝見した。

いつでもどこでも誰でもスポーツや運動に楽しみ、心と体を健やかにすることを奈良県で一丸となって取り組み、進めておられる。

子どもに関しては、小さいときからスポーツクラブで 1 つの種目に集中して運動するよりも、プレゴールデンエイジ、あるいはゴールデンエイジには、いろんなスポーツに親しませてあげることが重要である。また、運動経験の中から社会性も育まれ、運動経験から自信を積ませてあげ、彼らの将来のライフスキルの獲得につなげていくべきと考える。

ジュニアとシニアの交流というお話を、先ほどいただいたが、まさにその通り。人口比を見ると、高齢者が増えている。高齢者の生きがい形成、ウェルビーイングの維持向上、QOL の維持、身体的な機能の維持向上のためには、異年齢との関わり、とりわけジュニアとの関わりを活用することは双方にとって大事であると思う。スポーツの価値をそれぞれの年代に広めて、異年齢の関わりを大切にし、誰もがその恩恵を享受していただきたいと思う。

いろんな多様な年代、人、個性との関わりが大切であり、こちらには、関係課も出席され

ているので、県庁内の課をぜひ横にまたがって繋がり、考えていただければと思う。

橿原公苑の整備については、県内や近畿圏への波及効果、県内にとどまらずこの整備がどのような効果を見込んでおられるか。近畿圏には大きな施設がたくさんある。奈良県は少なかつたけれども、国スポをきっかけにできるこれらの施設が負の遺産とならないように、安全性、費用対効果、あるいはランニングコストに対して持続可能なのかどうか等、そのあたりをどのように考えていかれるのか興味深く伺った。

そしてまたこれらの運動施設は、奈良県のコミュニティの要になるとよいでしょう。橿原公苑周辺のスポートへの機運を高める工夫や、ロードスポーツというのを入れていただきたい。私は歩幅をすごく大事だと思い、ずっと研究している。身長あるいは足の長さに対する歩幅が、QOLあるいはウェルビーイングに大きく関わっており、最近の結果では、フレイルに変わるプレフレイルの段階で変化に大きく現れるのは、歩幅や歩く姿にあるという考察に至っている。転倒予防に貢献するために、蹴って前に進むというような推進力を促進する道やまちづくりをしていくと素敵だと思う。

〔中西委員〕

素晴らしいお話を頂戴して、少し重なる部分があるが、私は子どもに関わる仕事をしている関係上、子どもの運動不足はずっと研究をしているテーマである。我々が関わっているデンマークという人口約 590 万人の小さな国があるんですが、その事例を少しお話しさせていただきたいと思う。590 万人しか人口がないということは、子どももそれだけ少ない。その子どもたちが、本当にきちっと育たないと、国として立ち行かないという大きな問題を抱えている。

そのために、どういうことが必要なのかということを常々お話を聞かせていただいている。まず、国が完全にその子どもたちを立派に育てるためにサポートするというのが大前提で、自分たちの国が立ちゆくために、国がサポートするのは当たり前だという考え方をお持ちである。

そして先ほどからの資料に、1 日 30 分の運動と書かれているが、デンマークでは、1 年間、1 日 1 時間、楽しく体を動かす。運動というよりは、楽しく、自分で体を動かすということを、毎日 1 時間、それを大体 18 歳、大人になるまで続ける必要があると言っている。その結果、年をとっても、杖を使わないで歩く人数がとて多くなっているというような話を伺っている。

私どもはスポーツ関係のことをやっているのですが、子どもたちだけではなくて、親子で楽しく体を動かすことを、常々やってきている。運動というよりは、親子で楽しく過ごすことが重要な部分で、そのことによって、本当に子どもたちの体がしっかりと、いろいろなことが発達しているように私は思う。

すばらしい施設がたくさんできて、ものすごく羨ましい限りだが、応じて、「楽しく親子で体を動かす」ということも、重要ではないかと思っているので、その辺も考えていただき

たい。

〔木村次長〕

何点か質問にお答えさせていただく。

朝原委員の方から、まず未来のトップアスリートの取り組みが、新規なのか継続なのかという質問があったが、基本的には継続していきたいと思う。最初に、スポーツに興味ある子どもたちを広く公募し、スポーツ測定をおこない、その中から1次選拔し、選ばれた子どもたちで、プログラムを作っていくことを考えている。その子どもたちにはまた2年目さらに強化したプログラムというふうに、段階的にレベルを上げていきたいと思っている。1次選定で、いわゆる体力的に低かった子どもも、今後の県内のスポーツイベントには積極的に参加してもらう呼びかけをし、底辺を広げるところと、ステップアップしていくところと2段階でやっていきたいと思う。

亀田委員からあったコミッションの話について、県の方も勉強始めたところである。委員お述べのように、ぜひご協力いただけたところは連携させていただきたいと思う。

それと同じく亀田委員、朝原委員、中西委員、星野委員のお話で、健康や、シニアとジュニアの結びつき、或いは親子で体を動かす、そういうご意見をたくさんいただいた。ここについては、私も先日、他府県のスポーツイベントを視察に行き、気づいたことがある。今まで奈良県でスポーツのイベントをするときは、実際の選手を集めたスポーツ教室であるとか、指導者を集めての講習会、或いは選手向けの講習会等、実際にスポーツに直接関わっている人に対するイベントを行っていた。しかし視察したところは、ドクターや、製薬会社、医療機器メーカーが実施する「健康」をテーマとしたセミナーをやっており、子どもたちはスポーツ教室、大人・高齢者はセミナーの方に参加するという構成になっていた。これが非常にいいなと思った。今までやっていた我々のイベントが、スポーツ関係者を対象にしており、毎回来てもらう方が限られていたが、このように「健康」というテーマで広げると、毎回違う対象や内容のセミナーができると思った。

また、そのイベントの中で、往復8キロの山道を親子、或いはおじいちゃんおばあちゃんと孫で歩くというイベントも項目の中に入っていた。家族全体で或いは地域全体で、スポーツや健康というものに取り組まれていた。

これらは非常に参考になる取り組みであり、こういうことをぜひ奈良県でもやっていきたいと思っている。

星野委員からご意見いただいたスポーツ施設の整備の関係について、負の遺産にしないということは、最もなご意見だと思っている。先ほど新アリーナの規模等について説明させていただいたが、この規模を決めるにあたっては、ゼネコンやイベント会社、或いはプロスポーツの関係者に、いろんな聞き取り調査を行い、先ほど関係者に説明した最大5000人入る規模のアリーナとなった。これからさらに詳しい設計に入っていく際にも、利用者や民間企業等の意見をしっかり聞き、奈良県にとって本当にふさわしい、スポーツ施設の整備をしていきたい。

〔松下アドバイザー〕

ここにも記載されているが、マラソンは長年成功されているが、大会自体は、大きな経費を使ってるわけでもなく、非常に効率的で効果的な大会の運営ができていると考えている。エキスポにおいても、その滞在時間の長さでコンテンツ 1 つ 1 つの地元への密着度は非常に素晴らしいと思っている。

一方で、残念なのは、インバウンドの数。奈良県としてのポテンシャルがあるにもかかわらず、やはり、海外のランナーがなかなか奈良マラソンを走らないという現状がある。せっかくスポーツコンソーシアムを作られたので、スポーツツーリズムのいわゆる一番代表的でシンボリックな大会として奈良マラソンをとらえ、それをベースに、いろんなツーリズムを引っ張っていったらどうかと思う。先ほどから健康問題もあるが、奈良マラソンを契機とした、走りやすい歩きやすいまちづくり、いわゆるウォーカブルシティにつなげていったらいいようなイメージを作っていただけないかというふうに考えている。

ウォーカブルシティは、もしかしたら車には不便な町かもしれないが、歩いて健康になる、自然と歩いて健康になるといったイメージのスポーツ推進というものの、効果として現れるのではないかと考えている。

〔原田会長〕

ウォーカブルシティは今ブームで、あらゆるところでまちづくり、ハードとソフトで整備が進んでいる。

〔福西委員〕

ほぼお願いになるが、先ほど根本委員の時に、ボランティアの話が出たが、我々の団体は、運動公園の指定管理をしており、そこの掃除をどうするかという話がよく出る。例えば現在、運営側から、サッカー施設を利用する、特に学校の部活動の先生に、ゴミ袋取りに来ていただいて、最後掃除お願いできませんかという依頼をしている。半年もたてば、もうそれが当たり前になってきて、そこで何か大会をされると、例えば 10 チームぐらい来られたら、200 人ぐらいの生徒さんがいるため、終わった後も必ず掃除するという習慣がついている。個人の団体にはなかなか言えないが、それを例えば、県が指定管理に、そのような項目を取り入れれば、可能になると思う。日本の場合、小学校・中学校で自分の学校を掃除するということは、当たり前の感覚として身につけているので、やることへのきっかけは早い。また、高校生あたりに聞くと、自分達のグラウンドだと感じてくれる生徒もあり、そういったことを取り入れていただければ、学校だけではなく、外で出た時も自然と自分たちで掃除をするということが、身につくやすいのではと思う。

次はお金のこと。例えばトップアスリートを呼んで事業をすることは、民間でも我々のク

ラブでも何らかの形で、寄付を募ったりして、結構やりやすい。しかし、小さい子どもたちに、楽しい場所を与えるということは、我々みたいな地域のクラブがやろうと思うと、金銭的にほぼボランティアに近い形になってくるため、そういうところで例えば行政の方から何か募集をして、実施するという事になれば積極的にできるのではと思う。

先ほどの蝶間林先生の話であった、ピククルボールについて、私は大阪でその普及をしているが、誰でもでき、結構楽しくできる。そこでは会費を取らず、教える必要もないレベルで楽しくできるため、学校の授業や、学童のスポーツに入れてくださいと依頼すると、やりやすいと思うのでお願いしたい。

医学の話が出たが、サッカーや野球で、奈良県立医大の整形外科の医師が、小学生の野球の大きな大会がある時に、野球肘の測定をやりながら、子どもたち、指導者だけではなくて、メインを保護者とした講演を行っている。そうすると、保護者からスタッフや、指導者側に、「そこまでやってうちの子どもを潰すのか」という意見を言うことができる。

サッカーの場合、膝のことをやっていただいているが、フットボールセンターの大会の時は、若いリハビリテーションセンターの生徒にたくさんボランティアに来ていただき、測定器を提供できる病院を探していただいて、測定を行っていただいているようなイベントがある。ぜひ継続してやっていただければいいと思う。

先ほどの檀原公苑のナイトランの話であるが、最近部活動の場になってきており、楽しく走る人たちが、少し走りにくい環境にある。それはそれで、生徒達の環境がよくなることはいいが、そういう楽しく走りに来ている人の場合、陸上で少しアドバイスできるような人があそこに来られ、少し簡単なアドバイスをしてくれることがあれば、積極的に行く人も増えてくるのではという気がしている。

お願い事になったが、答えは特に不要であるため、そういうことも、皆さん頭に入れていただければありがたい。

〔田中委員〕

奈良マラソンの医務委員の医務の責任者を長い期間務めた。死亡事故ゼロということで、今度国スポがくるタイミングになった時に、日程を早く周知していただきたい。ボランティアの方も奈良マラソンでは、かなり入っていただいているが、国スポの場合、全国規模になるので、メディカルの人数も非常に多く必要だと思う。

現実なかな人が集まらない状況になると思われるため、日程を早く決めていただいて、それに合わせて情報を早くおろしていただくことをお願いしたい。

〔原田会長〕

明確なリクエストですのでぜひよろしく願います。

今日は貴重なお意見を賜り感謝申し上げます。

事務局においては、今の意見を参考としていただくようお願いする。

それでは本日の審議会は、終了とさせていただきます。

皆様のご協力により、大変有意義な会議となったこと、また、スムーズな運営ができたことを厚く御礼申し上げます。

それでは事務局にお返しする。

〔木村次長〕

本日も長時間にわたりまして貴重な意見をいただき感謝申し上げます。

今日この場で私の方からお答えさせていただいた項目と、お答えできなかった項目がある。

しっかりとご意見、感想を受けとめて、これからの奈良県のスポーツ推進の方に努めて参るので、今後ともご協力をお願いしたい。

〔河内課長補佐〕

・閉会

以上の事項は、事実と相違ないことを証明する。

令和7年 月 日

議事録署名人

蝶間林 利男 印

議事録署名人

福西 達男 印

※署名、押印された原本は別途保管